○議長（前原英石君）　２番　塩原　勝君。

○２番（塩原　勝君）　おはようございます。

村の埋蔵文化財の整備と展示について、私の考えを述べるとともに、当局の考えをお聞きしたいと思います。

平成２３年６月の議会で、村史の第３編の発行についてお聞きしております。現在、もうすぐ発行ができるというふうに聞いております。その質問のときに、村の文化財についての整備と展示について要望しています。

そして、同じ平成２３年１２月の議会では、芸術・文化活動の振興を図るための拠点となる施設の建設をお願いし、村の文化財の保存、調査・研究、記録、展示・発表などの構想があるかないか、もしないのであれば、早期の建設を要望しました。

そして、１年後の平成２４年１２月議会では、村内に存在する文化財的価値、そして考古学的価値の高い物を整備して、わかりやすい冊子やデジタル化したＤＶＤにまとめ、文化財と一緒に展示することによって、児童生徒や村民に、郷土を知り、誇りを持ち、郷土を愛する心を高めてもらえるようお願いし、要望しております。

しかしながら、なかなか進展しないので、今回は、ばらばらに分散して保管されている埋蔵文化財について、整備、展示の考えがあるかないかをお聞きし、なければ、ぜひ実現してほしいということで、改めて質問するものであります。

舟橋村には、埋蔵文化財関係で発掘調査された箇所は７１カ所、遺跡に登録されているものが２１カ所で、村内関係の刊行報告書は、１３冊はあると思っています。

２００５年、私が教育委員会に在職中でありますが、三、四の発掘調査がなされております。２００５年に発掘調査され、村として１０冊目として刊行された東芦原遺跡発掘調査報告書の序文は私が書いたもので、幾つか書いておりますが、ちょっと紹介させていただきます。

県東部・富山平野のほぼ中央に位置し、おいしい水と豊かな緑に恵まれた舟橋村は、その地名も、舟を連ねて橋をかけていたことに由来すると言われている。昔から水量豊かな河川もあり、舟の運行も盛んで、仏生寺城の外堀に利用された京坪川、そして中級河川の白岩川等は、旧中新川郡の米俵の積み出し等の中心的役割を果たし、また扇状地として広がった平野は大変肥沃で農業に適していた。このため、太古より大きな集落が存在し、人もたくさん住み着いていたようで、よく舟橋村はどこを掘っても埋蔵文化財があると言われる。

今回の調査は、住みよさ県内一番と言われるほどの環境と立地条件のよさから、早くから宅地開発が進み、また村の人口増対策等により、村外からの移住者も増加している中で、東芦原地区の、宅地分譲事業実施による宅地造成に伴う発掘調査で、平成１６年度に実施した。発掘では古墳前期・中世の集落跡、そして、遺構としては井戸、土杭、溝などが、また土師器、青磁、漆器に石臼などの石製品等が多数見つかり、芦原の名のとおり、京坪川の開けた大芦原の周辺に住み着いた大集落跡と考えられ、村の古代・中世史を知る上で貴重な史料となったという書き出しで始めております。

このように、村内でも人類が生活した痕跡が土中に埋もれ、土器や石器の遺物、人の生活でできた穴や溝などの遺構が多数発見されています。

しかし、残念ながら、国、県の史跡に認定されてはいません。せめて村で史跡として整備すれば、県でも関心を持ってくれるはずであります。

それでは、県の埋蔵文化財センターの資料から二、三紹介してみます。

竹内東芦原遺跡では、縄文時代の土器と集落跡が見つかり、また、そこには炭化したもみの塊が見つかっております。

「一粒の籾、若し地にこぼれ落ちたらば、遂にただ一粒の籾で終わらないであろう」。昭和１６年刊行の『日本農耕文化の起源』に書かれているそうで、大変有名な話だと聞きました。

発掘されたこのもみの塊は、県の農業試験場に持ち込まれ、その結果、古墳時代の物とわかり、さらにその後、静岡大学でＤＮＡ鑑定して分析され、日本農業は弥生時代から始まったことを語っているとされていました。

舟橋浦田遺跡では、弥生時代、本格的に定住が始まったことを証明する、立ち並ぶ建物群跡が見つかり、ほかにも古代の畑跡、弥生時代の井堰、そして土器と玉の発見などがあります。

それから、舟橋浦田遺跡と仏生寺城跡あたりには、奈良・平安時代の掘っ立て柱建物が多数見つかっております。

仏生寺城跡においては、室町時代、細川氏が城主であって、ここに城が築かれた痕跡が残っております。そして、これは、県のほうでも、「５００年前の記憶・今に生きる仏生寺城」という刊行物の見出しになっています。

舟橋村利田横枕遺跡においては、１，４００年ほど前の塩を運んだ土器、製塩土器などがまとまって出土しています。

これらは能登や氷見で出土される物と同質であります。貴重な塩や製塩土器が産地から運ばれたその塩の道がわかり、文化や物や人の交流が解明されます。

このように、せっかく郷土の歴史をしのばせる史料がたくさんそろっているのに、ほとんど県の埋蔵文化財センターと村役場の３階にただ保管されているだけであります。確かに舟橋会館２階のガラスのケースの中には、遺物が２、３個は陳列されてはいますけれども。

ということで、私はぜひ、村史第３編が発行されるこの機会に合わせまして、会館か学校に埋蔵文化財コーナーをつくり、刊行報告書や解説書、年表などでわかりやすくし、また遺跡の写真や遺物を陳列するとともに、ＤＶＤにまとめるなどして村民に関心を持ってもらえるようにしてほしいということであります。

このような構想があるかないかをお聞きし、また早い時期の実現が期待できるかどうかを質問したいと思います。

以上であります。

よろしくお願いします。

○議長（前原英石君）　教育長　髙野壽信君。

○教育長（髙野壽信君）　おはようございます。

塩原議員さんのご質問にお答えします。

平成２４年１２月議会でも議員さん自身から、村内の神社、寺社、石碑、埋蔵文化財、伝説など、かなり詳しく説明していただきながら質問を受けました。

議員さんが質問されましたように、文化財等は舟橋村を正しく理解する上で決して欠かすことのできないものであると同時に、将来の文化の基礎になるものであり、これを適切に保存し次の世代に継承していくことは、大変重要なことと承知しております。

前回の質問の際にも答弁いたしましたが、現在、村では舟橋会館で出土品を展示しております。しかし、議員さんご指摘のように、より充実した展示内容にするには、それなりの施設、場所、保存方法、管理方法、人材の確保など難題が多々あります。

ちなみに、さまざまな歴史・文化遺産を収蔵・展示している近隣の施設について調べてみました。

まず、立山町の郷土資料館ですが、旧谷口小学校を２，５００万円で改修し、学芸員と事務員を１名ずつ配置、年間維持管理費が約６００万円、入館者数は昨年４月からことしの２月末現在で１，００５名。次に、上市町の弓の里歴史文化館は、土地を除いて、

建設費２億５，０００万円、年間維持管理費１，０００万円で、昨年度の入館者数は１，８９８名。また、滑川市立博物館の建設費は３億７，０００万円と、このように近隣の実態があります。

集客といった一つの面から考えても、多くの人に利用してもらうためには、他の地域にはない独自性と魅力を発信しなければなりません。現在の村の財政面を含むいろいろな要因から、博物館や文化関係施設の早急な設置は非常に困難だと思います。

議員さんご指摘の埋蔵文化財については、県の埋蔵文化財センターの指導を仰ぎながら、会館、図書館、学校と連携し、幅広く村民に郷土の歴史を知ってもらう展示方法を考えているところです。また、今後は、校外学習として埋蔵文化センターへ子どもたちが出かけることも計画していきたいと思います。

ただ、先ほども述べましたように、歴史の好きな人だけでなく、子どもを含むたくさんの人に見ていただくための方策も講じなければならず、時間が必要であることをご理解いただきたいと思います。

また、この機会をおかりし、報告しておきます。

村史編纂が最終年度に入り、村民６名の方を含む編纂委員の皆様には、大変ご苦労をおかけしております。膨大な史料の中から粗原稿ができつつあり、追い込みの時期になりました。この編纂事業により新たに収集や探索されました史料も多く、これらも村民の皆様の共有の財産となって、村の歴史や文化を次の世代へつないでいくことになります。

この編纂史料も含めまして、整理・保存・公開をしていく大きな責務があります。先人がどうやって歩んできたのか、それをどうやって次の世代に伝えていくか。すなわち、舟橋村の過去を知り、未来に伝える重要な役割を我々は担っております。

今後さまざまな角度から検討を重ね、関連機関と相談・連携し、効果的な方法を考えていきたいと思っております。その折には、ここにおいでの皆様のご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。